



学校教育目標

「なりたい自分」に向かって「挑戦」する三つ巴っ子の育成 —自ら磨く ともに高める 「本郷魂」—

三原市立本郷小学校は、明治8年（1875年）に高山城の麓、圓光寺に開設された、歴史と伝統のある学校です。高山城は戦国時代の武将、小早川隆景の居城であったことから、本校の校章には小早川家の家紋「左三つ巴」を戴いています。

私たちは開校151年目となる今年度、学校教育目標を刷新しました。これまでの素晴らしい歩みを大切に継承しながら、児童312名、教職員33名が力を合わせ、新たな一歩を踏み出します。

○「安心して『挑戦』と『失敗』ができる学校」

学校とは言うまでもなく「ともに学ぶ」場所であり、「学び」に「挑戦」「失敗」はつきものです。「失敗」は誰しも「したくない」「恥ずかしい」「だめな」ことと思いますが、本校では「価値ある宝」ととらえます。「挑戦」「失敗」がなければ「なりたい自分」に近づく「学び」「成長」は得られないからです。児童・教職員がどんどん「挑戦」し、「失敗」も含め、みんなでその姿を評価・応援する学校づくりを進めます。

○『「本郷魂」を持った三つ巴っ子を育てる学校』

教職員が「挑戦」する姿を率先して児童に示しながら、「かしこい魂（知）」「やさしい魂（徳）」「たくましい魂（体）」という三つ巴の本郷魂を持った、「三つ巴っ子」の育成をめざします。「魂」には「気持ち」だけでなく、それを表出できる「力」も含まれています。自分も人も大切にされる学習環境の中で、「やる気」を高めながら「かしこさ」「やさしさ」「たくましさ」を着実に高める取組を、個々の実態に合わせてながら粘り強く重ねてまいります。

○「自分やふるさとへの愛着(アイデンティティ)を育む学校」

「よりよい自分」をめざす意欲は、自分や自分を取り巻く環境への愛着が源泉になる、と考えています。そのため本校では、「ふるさと学習」「学校図書館教育」によるアイデンティティ育成を教育推進の大きな柱に据え、コミュニティ・スクールによる保護者・地域の方々との協働により、地域の教材化や見学・人材活用・多様なゲストティーチャー招聘など、その取組を充実させてまいります。

地域の宝である児童のよりよい成長に向け、全教職員一丸となって教育活動に邁進してまいります。保護者・地域の皆様、変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

広島県三原市立本郷小学校 校長 朝原 啓一郎